

CEO1番船 汽船「ニューびんご」 撥遣法要を実施

ツネシクラフト&ファシリティーズ [TFC] 4/19

TFCはCEO1番船「ニューびんご」の撥遣法要(性根抜き法要)を行った。
当日は、神勝寺無明院の武田 忠法禪士による祈祷に合わせて来賓及び関係者が焼香し、回向句をもって締めくくられた。本船は、平成元年に「常石港～尾道港」航路に就航し、約34年にわたって離島の皆さんの生活を支えてきた。解撤後は、新たなアルミ合金の製材として生まれ変わる。



通勤・通学はもちろん、観光客の足として地域の生活を支え続け、その使命を全うした「ニューびんご」



国立研究開発法人科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム:<https://www.jst.go.jp/pf/platform/>
東京大学未来ビジョンセンター ビヨンド・"ゼロカーボン"を目指す"Co-JUNKAN"プラットフォーム研究拠点:<https://coinext.ifi.u-tokyo.ac.jp/index.html>

産学公連携の「共創の場形成支援プログラム」に参加

常石造船 4/25

常石造船は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が推進する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」に参加。東京大学未来ビジョン研究センターや自治体、ほかの企業と連携して、バイオマス由来の物質を船舶燃料として利用するための技術面・運用面の課題などについて研究を進め、プロジェクトの実現に貢献する。

今月 天友会・神勝寺からのお知らせ



天友会、神勝寺で開催されるイベントの告知や、当日の様子などを紹介。
皆さんぜひご参加ください。

天友会

ご逝去 謹んでお悔やみ申し上げます

池田 宏三様

2022年4月23日 94歳 在籍会社:旧常石ポートサービス

新会員紹介

氏名	退職時在籍会社
岡田 禎洋様	ツネシCバリュース
渡辺 一史様	ツネシカムテックス
施 建剛様	常石造船

6月の行事

『歩こう会』

1時間程度歩きます。雨天の場合は中止

日 時 毎週火曜日 午前7時から
集合場所 ツネシしまなみビレッジ本館

【お問い合わせ】

天友会事務局 所在地:福山市沼隈町中山南26-1
TEL:084-988-0302 FAX:084-988-0300

神勝寺

早朝坐禅会

日 時 毎週水曜日 午前6時から

場 所 国際禅道場内 大徹堂

無明会

日 時 6月12日(日) 午前11時から

場 所 神勝寺 無明院

公開講座のご案内

講 座 禅文化講座(聴講無料)

日 時 6月18日(土) 午後1時から

講 師 花園大学国際禅学研究所 芳澤 勝弘先生

場 所 神勝寺 無明院

最新情報は「神勝寺 禅と庭のミュージアム」ホームページでも確認できます。 <https://szmg.jp/>

【お問い合わせ】

神勝寺 無明院
TEL:084-988-1111 FAX:084-988-0117

つねいし通信

2022.6

Vol.003

神田ドック始動! 船舶修繕事業を推進

2022年4月、「神田ドック株式会社」が始動した。旧・神田造船所(広島県呉市)の設備を引き継ぎ、常石グループの新社として船舶修繕事業を推進する同社について紹介する。



■歴史(旧・神田造船所)

1937年(昭和12年)3月 旧海軍指定工場「神田造船鉄工所」として創業

1956年(昭和31年) G/T700型第一船台を新設し、G/T700型鋼船の新造を開始(常石造船では1958年に初の鋼船「美小丸(貨物船361総トン)」を竣工)

1959年(昭和34年) 若葉工場を設立。修繕専用工場

1969年(昭和44年) 川尻工場を設立(常石造船では、1968年に20万重量トン修繕ドックを完成)

以降、各設備の増強を繰り返し、川尻工場は32,000重量トンと10,000重量トンの船台、若葉工場では4,000重量トン、3,000重量トンの修繕ドックなどを有する造船所に成長。

2021年(令和3年) 新造船撤退

顧客から信頼される高い技術力と 高効率な設備により、修繕事業に貢献

1900年代に瀬戸内海を航行するフェリーを数多く手掛け、「フェリーの神田」という異名を持つ同社。2000年代に入ると、新興国の需要を受けて開発した「KANDAのHANDY」というブランド(SMALL HANDYシリーズ)を構築した。また、中小型船を中心に、セメント船やRORO船、フェリーなどの修繕に強みがあり、内航船主からの信頼も厚い。こうした技術力の高さで多くの支持を集めている。

受賞歴に、現シンフォニークラシカ(レストラン船)で「グッドデザイン賞(1989年)」、タンデム・ハイブリッド・セメント船では「Marine Engineering of the year 2010」、現在も就航中のフェリー「シーバセオ」では「Ship of the year 2019 小型旅客船部門賞」などがある。

「強みを磨き、持続的成長を実現する」を中期経営方針として掲げ、常石造船の修繕事業と一体となり、より強固な修繕事業の確立を目指す。85年にわたり培ってきた顧客との親密なりレーションの維持・発展を土台に、高効率な設備の運用による収益貢献に期待が高まる。

Top message

高品質なサービス提供で 常石造船との強固なシナジーを発揮

中井 利文代表取締役社長

常石グループの新たな一員として、これまで通り、お客さまや船員の方々をはじめ、地域社会、社員から愛される企業を目指します。船舶の安全性と環境負荷軽減に貢献するため、高い品質を保ったサービスで付加価値を提供し、常石造船との強固なシナジーを発揮してまいります。

■会社概要

代表取締役社長	中井 利文
資本金	1,000万円
従業員数	約110人
主要事業	船舶の修繕
株主	常石造船100%子会社

March ~ April, 2022

南海トラフ大地震を想定し 危機管理対策本部訓練を実施

せとうちクルーズ 3/28

せとうちクルーズは危機管理対策本部訓練を実施した。これは、ガンツウ運航中の早朝、お客さまが宮島を散歩中に南海トラフ級の大地震が発生したことを想定したもの。松本 一宏社長をはじめ、安全統括や運航、旅客の部門責任者など12人が参加し、一時避難や津波退避の初動対応、翌日の対応方針の決定など、お客さまと社員の安否安全を第一にした訓練が行われた。



ガンツウと本社対策本部が一つのチームとしてどのように考え意思決定をするのか、オンラインで情報共有し、知識や意見を交換しながら検証された



ヨシダは、TKAMとの協業により鉄スクラップに加え廃棄物や非鉄スクラップなどの取り扱いが可能となり、解体現場における一括回収を実現してビジネスチャンスの拡大を図る

株式会社ヨシダをグループ化

ツネイシカムテックス [TKAM] 3/31

TKAMは富山県にある株式会社ヨシダ(以下ヨシダ)をグループ化した。ヨシダは主に鉄や非鉄金属の仕入れ・加工及び販売を行っており、鉄スクラップの年間取扱量は富山県内3位の実績を誇る。加えて、廃油の収集事業、運送事業など多岐にわたる事業を展開。TKAMはグループ化により北陸地方に強固な事業基盤を確保し、事業エリアの拡大を進めていく。

神田ドックが発足式を開催

神田ドック 4/1

4月1日、株式会社神田造船所の修繕事業を継承する神田ドックが、発足式を開催した。発足式は、同社の2つの拠点である川尻工場、若葉工場ですれぞれ行われ、合わせて100人以上の社員が参加。中井 利文社長は「これまでに培ってきたお客さまとの信頼関係を基盤として、会社をさらに発展させるため、常石造船との協業を進めていく」とあいさつした。



発足式であいさつをする中井社長。「風通しのよい会社にするため、各部署に直接伺います。どっくばらんに話しましょう」と呼びかけた

2022年度入社式を開催

常石グループ 4/1

常石グループは4月1日に2022年度の入社式をオンラインにて行い、新入社員59人を迎えた。ツネイシホールディングス 河野 健二会長をはじめ、各社社長からのお祝いの言葉に続き、新入社員を代表して神原汽船の辻子直貴さんが「新入社員一同、互いに高め合い、ともに成長し、グループの発展に貢献してまいります」と意気込みを語った。

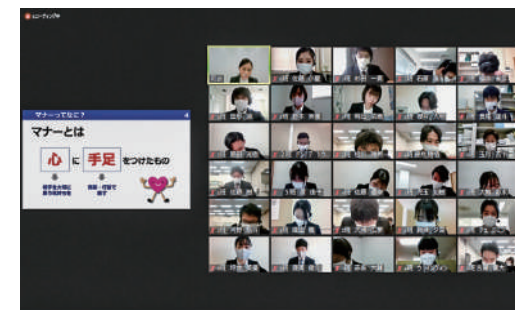


新入社員を代表して意気込みを語る、神原汽船の辻子 直貴さん

新入社員研修 学生から社会人への 意識改革と同期とのきずなづくり

常石グループ 4/1~4/8

常石グループ2022年度の新入社員研修がオンラインにより開催された。研修では、常石の歴史・企業理念の周知、ビジネスマナーやメンタルヘルスについての各講習、各事業セグメントの説明などを通じて、社会人としてはもちろん常石グループの一員として必要なことを学んだ。外部講師を招いたグループワークも行われ、学生から社会人へのマインドチェンジが図られた。



オンラインで、ビジネスマナー講習やグループ会社の事業説明を受けた



見学会には宮古市市民31人が参加。「船名決定総選挙」も行われ、船名が決定した

「完成間近の遊覧船見学会」を開催

ティエフシー 4/10

ティエフシーやまだ工場は4月10日、宮古市主催・日本中小型造船工業会共催による「完成間近の遊覧船見学会」を開催した。公開されたのは、総トン数19トン、全長18.8m、乗船客数80人のTF011番船(アルミ合金製)。7月17日に運航開始予定で、宮古市の新たな観光資源として注目を浴びている。

ウェブサイトをリニューアル

神原汽船 4/11

神原汽船は4月11日、ウェブサイトをフルリニューアルした。新サイトのトップページは、2021年に制定したビジョン「SHIPの新たな可能性をカタチにする。」を、視覚的に解説するデザイン。事業紹介では、事業ごとに詳細説明を追加し、わかりやすく伝えている。また、サステナビリティのページも新設し、持続可能な社会の実現を海運業界から支えようという同社の姿勢を表明している。



トップページにデザインされたSHIPは、同社が使命として掲げる4つのキーワード「Sustainable」「Harmonized」「Integrative」「Proactive」の頭文字

気候変動による影響・リスクの情報開示を促す 「TCFD提言」への賛同を表明し、環境対応を加速

ツネイシホールディングス [THD] 4/18

THDは4月、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に賛同した。これは、金融システムの安定化を図る国際機関FSBが設立したプロジェクトチームTCFDによる提言で、企業に対し、気候変動による事業への影響やリスクの情報開示を促すもの。THDではこの度の賛同表明に伴い、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4つの視点から情報開示を進めていく。



TCFDはTask Force on Climate-related Financial Disclosures、FSBはFinancial Stability Boardの略称